

## 本県の情報通信技術支援員派遣事業における現状と課題

---

### 現状

GIGAスクール構想に基づくICT環境の整備が進む中、機器管理やトラブル対応なども教員が対応。

- ICT支援員制度の利用が一部の学校に留まり、本来の役割を十分に果たせていない。
- 

### 理想と現実の乖離

#### 理想

余白時間の創出、働き方改革の推進

ICT支援員の専門性を活かし教育DXを底上げ

県全体の資産として知見を共有・展開

#### 現実

活用ノウハウ欠如で利用が一部に限定

雑用的役割に終始、支援効果の属人化

支援員育成の手間感とノウハウ共有不足

---

### 課題

#### 1. 役割の不確さと活用ノウハウの欠如

- 支援員の業務範囲不明確で、学校現場が運用に困惑。

#### 2. 支援効果の属人化・孤立化

- 成功事例が学校内に留まり、県全体に展開されない。

#### 3. リソースの非効率な運用

- 支援員が御用聞き的役割に終始し、人的リソースが浪費。
- 

### 期待される効果

#### 1. 教員の業務負担軽減

- ICT関連の付帯業務を支援員が担い、教材研究や生徒指導に注力可能。

#### 2. 教育の質向上

- 余白時間を活用し、個別対応や深い学びを推進。

#### 3. 県全体の教育DX加速

- ノウハウ共有で学校間の格差を是正し、ICT教育水準を均質化。